２０２２年度　平田中学校

図書館便り　No.15

２０２３年３月３日発行

今年もたくさんの利用、ありがとうございました！

図書室は３月９日（木）まで開館します。

まだ本を借りている人は**必ず**返却をお願いします。

３学期

クラス別貸出冊数ベスト５

1	３年１組	57冊
2	３年４組	54冊
2	２年３組	48冊
4	１年１組	47冊
4	２年２組	42冊

2022年度

クラス別貸出冊数ベスト５

1	３年４組	276冊
2	３年１組	239冊
3	１年１組	231冊
4	２年２組	192冊
5	２年４組	160冊

（いずれも3/1現在の冊数です）

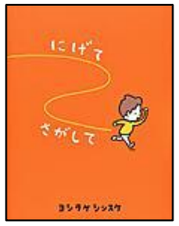
図書室には、個人別の貸し出し冊数のベスト１０を掲示しています。
２２年度に一番多く借りた人の冊数は、１年生73冊、２年生64冊、３年生186冊（2位の人とは110冊差！）でした。
たくさんの利用、ありがとうございました！

新しい季節の別れと出会いを前にして、不安と希望で気持ちが揺れ動くこともありますね。春を迎えるこの時期、ぜひ手に取ってほしい本をご紹介します。

『自分を信じる力』　福岡 堅樹著　講談社

「成長の限界を決めない」「自分を客観視する」「目標はいつ変わってもいい」
ラグビーW杯日本代表、医学部合格を実現した著者が、自らの軌跡を振り返り、挑戦することの大切さを語っています。
彼の歩んできた道のりは険しく、真似することは難しいですが、それを乗り越えてきた思考と行動はヒントが満載です。迷った時や気持ちを上げたいときに読むと勇気がもらえますよ。

『にげてさがして』　ヨシタケ シンスケ著　赤ちゃんとママ社



「きみの足は、やばいものから逃げるため、それから、きみを守ってくれる人やわかってくれる人を探して、その人のところへ行くためについている…。」
「にげる」という言葉にはマイナスのイメージを持ちがちです。しかし、この本を読むことで、それは決して悪いことではなく、自分が自分らしくいられる環境へいくための方法であることに気づかせてくれます。

「半日村」　斎藤 隆介作，滝平 二郎絵　岩崎書店

高い山のせいで半日しか陽のあたらない半日村。大人たちは「わるい村にうまれたと思って、あきらめるよりしかたがない」と言います。しかし村の少年一平は、ひとり山へ向かい、山の土を掘っては湖に捨てはじめます。「途方もないことを始めた」そう言っていた周りの人たちですが、やがてひとり、ふたりと手伝う者があらわれ･･･
目標に向かって、小さくてもいい、勇気をもって一歩を踏み出すこと。その意味の大きさを感じます。

～ご卒業おめでとうございます！３年生の皆さんにとってはこれが最後の図書館便りです。～

中学時代の思い出の場所として、学校図書館はどんなところでしたか？心に残る本との出会いはあったでしょうか。
特に今年の３年生の皆さんは、本の好きな人が多く、たくさんの人が図書室に来てくれましたね。
４月からの希望にあふれる新しい生活の中でも、本に親しみ、数多くの本との新しい出会いがありますように！